

最近の住宅機器は「便利」「スマート」なものも多く、停電や断水時には使用できないものも多くなっていることがあります。

特に、お風呂やトイレは特にその傾向があります。

健康管理に直結し、最もリラックスできるお風呂・トイレが、使用できない・我慢することは災害発生時大きな課題でした。今回は湯水による断水の可能性が出ている状況での対応ですので、準備する時間があります。

以下は、専門家やメーカーの情報を紹介するものですので、実際に検討する時に参考にして下さい。これは住宅事情で全て異なります。特に、火を使う時には最大の注意が必要です。

## 1. 断水時のお風呂の給湯器

2005年以降に製造された機種は「おいだき」ができない構造になっています。

(浴槽水の逆流防止の為に、機器に水圧がかかっていると「おいだき」が出来ない構造)

→ これをクリアするための手法や工事は専門家レベルです。

詳細は給湯器設置の専門業者と問い合わせ願います。

なお、市内外の入浴施設については市からの案内が出ています。

## 2. トイレの使い方

最も簡単な使い方は下図のような使い方です。

LIXIL等のメーカーのホームページ等で紹介されています。



- ① あらかじめ浴槽などに汲み置きしておいた水をバケツ1杯程度用意し、便器鉢内に一気に流し込みます(水飛びに注意しながら行ってください)。
- ② さらに3-4Lの水をゆっくり注ぎます。(トイレ内の水はり)ただし、この水量では便器の汚物を排出する事ができても、排水管の途中に汚物が停滞する事がありますので2-3回に一度は、バケツ2杯程度の水を流してください。

LIXILのホームページ(動画あり)参照願います。

**最もシンプルな方法ですが、大災害時には必須の手法！**

